

私たち、北見赤十字病院の明日を考えた支援する会はポスター発表の行われた市立体育センターの武道館に設置された休憩コーナーやドリンクコーナーの運営を支援しました。

またその会場の一角の大きな壁面パネルを利用して最新の14号までの「オホーツクの風」を貼り付けたパネル。そして病院の解体前の旧館、新築の新館、ぼんち祭りの舞踊パレードに参加した吉田院長はじめ皆さんの群舞などの大判写真を壁面ボードに展示しました。

「北見での思い出づくりの集い」▼この行事の目的は、北見赤十字病院で臨床研修に励む先生方に市民として感謝の気持ちを伝え、北見の病院で医師として帰って来てくださることに願いを込めて、焼き肉料理とオホ

ツクビールで青空の下で和気あいあい楽しむことです。

逢坂代表の発表

11月6日に行われる「外科手術・整形外科 体験 ブラック・ジャックセミナー」について▼本誌6面の記事と内容が重複しますので、本欄では割愛します。前半の発表が終わる、私たちのテーブルを対話が出来るように並べ換え、後半は懇談です。

浦河の皆さんとの懇談

懇談の呼び水として、研修医の焼き肉の運営の話から始まった。当会は小さな市民グループなので、少ない予算でやりくりをしていますが、焼き肉やビールを無償や格安で提供して貰える協賛各社を探すことです。会員の人脈を総動員し、お陰様で協賛各社の協力が得られ、今年で3回目を迎える



ました。

機関誌に北見日報の決算報告が載っているがどのようにして会計情報を得たのか会場からの質問。決算情報は公開されていません、その情報で記事を書いたのですが、やはり、このような記事を載せることが出来たのは病院との信頼関係が出来ていたからだと考えています。私たちは、先程の発表にあつたように、会の発足当時はどんなことをやっている会ですかと、聴

かれても返事をする事が出来なかつた。病院を知り、そのひたむきな医療活動に感謝をすることから信頼関係が生まれたと考えています。

現在は自信を持って、私たちは北見日報の応援団であり、広報部門ですと、答えることが出来ます。やはり病院との信頼関係が出来たからと思っています。

小野保健福祉課長から守る会の発足からの経過を発表。当会の発足当時と同じように何をやってたよいか、さ迷っているように感じました。

時間も迫まり、代表が今回の研修は当会との交流の始まりで、今後、お互いの研鑽のスタートにしたいと参加戴いた浦河の皆さんへのお礼とお招きを戴いたお礼を述べ、前半の発表と懇談の60分を閉めた。

海が見える病棟

浦河赤十字病院を訪問

翌朝、8時50分、浦河の東町に立地する浦河赤十字病院のロビーで北見で会の担当でお世話になった佐藤主事と再会、久しく挨拶を交しました。

早速、事務部に案内

内され、部の皆さんが一斉に席で立ち上がり、礼儀正しく、ほほえみで迎えてくれました。見知らぬ土地での出会いにうれしくなりました。



いて、すぐに、院長応接室に通された。朝の診療が忙しいにも関わらず、武岡院長にお目にかかることが出来ました。持参した「オホーツクの風」のバックナンパーを手渡し、昨日使用した大判の写真を応接セットの横に展示させて戴き、昨日の研修会の様子を報告し、また大判の写真を示しながら、北見での活動を報告しました。

面談で武岡院長は医師不足の中、限られた医療資源で、職員は24時間懸命に使命を果たしてくれているが、なかなか、地域で今少し解って貰えないのがと静かに話されていたのが印象的でした。

面談の後、佐藤主事が7階の太平洋が見える病棟を案内してくれました。ゆっくり見学をしたかったので時間がなく、浦河赤十字病院を後にしました。